

Before

好きな場所の取材を始めて良かった！ 銭湯・サウナライターになって気づいたこと

★ここでクイズ

以下のリード文には、Before・Afterで大きく変えた部分があります。それはどこだと思いますか？理由もあわせて考えてみてください

みなさんは、こんな気持ちになったことはないでしょうか。

- 好きな趣味はあるけれど、仕事とは切り離して考えていた
- せっかく時間とお金をかけているのに、ただ消費するだけでいいのかなと感じている
- 好きなことを仕事にできたらいいのに、でも実際にはどうすればいいかわからない

私はもともと銭湯やサウナが大好きで、5年ほど前から通い始め、今では全国270件以上の施設（銭湯・スーパー銭湯・個室サウナ・宿のお風呂など）に行っています。でも最初は、それはただの趣味であり、仕事とはまったく別のものだと思っていました。

去年から、近畿日本ツーリストさんのウェブメディアでライターとして、銭湯やサウナの取材記事を書き始めました。やってみたら、良かったことしかない！ 今日はその話をしようと思います。

解像度が上がって、五感が研ぎ澄まされた

個人で銭湯やサウナに行っていた頃は、正直そこまで深く考えていませんでした。「暖かくて気持ちよかった〜！」で終わっていたんです。

でも、記事を書くためにはもっと細かく観察しなければなりません。「暖かくて気持ちよかった」だけでは記事が成り立たないので、なぜ気持ちよかったのか、この施設の特徴はなんなのかを言語化する必要があります。

そうしているうちに、気づいたことがたくさんありました。たとえば温泉の泉質。温泉には実は8種類ほど分類があって、pH値が高いとアルカリ性の「美肌の湯」として知られ、肌がしっとりする効果が期待できます。逆にpH値が低い硫黄泉は独特の匂いがありますが、皮膚病への効果が期待されていたりします。

記事を書くようになってからは、プライベートで銭湯に行く時でも、「ここはどんな泉質なんだろう」「この施設ならではの魅力はなんだろう」と観察しながら入るようになりました。今までよりも、ずっと五感を研ぎ澄ませて楽しめるようになったと感じています。

オーナーさんの話が聞けて、施設がもっと好きになった

これが、私にとって一番の収穫かもしれません。

個人で銭湯やサウナに行く分には、オーナーさんとじっくり話す機会はほとんどありません。せいぜい受付での事務的なやり取りだけです。でも取材となると、「この施設のこだわりは？」「苦労したことは？」「最近力を入れていることは？」と、いろんなことを聞けるんです。

特に印象に残っているのが、品川区にある「宮城湯」さんの取材です。ここはプライベートでも30回ほど通ったことがあるくらい大好きな銭湯で、取材させていただいたとき、オーナーさんのお話を聞いて、さらに好きになりました。

オーナーさんは私よりも少し年上の、まだ若い社長さん。サウナ利用者が快適に入れるように、マットやタオルを袋に入れて配る工夫をされていたり、ブームに合わせて休憩用の椅子を増やしたり、常連さんのちょっとした困った行動にも丁寧にコミュニケーションをとって対処されていたりと、本当に真摯に取り組んでいました。

「ああ、やっぱりここが好きだったのは、間違いじゃなかったんだ」と改めて思えて、嬉しかったです。

業界で頑張っている人、こだわりを持っている人の話を聞けるのは、取材ならではの体験だと感じています。

★ここでクイズ

以下の文章には、メディアが不利益を被るかもしれない部分があります。それはどこでしょうか？理由はなぜでしょうか？

普通では会えない人や、行けない場所に行けるようになった

仕事で取材をしていると、プライベートでは絶対に経験できないことも起きます。

たとえば、BS朝日のサウナ番組「サウナを愛でたい」と私が書いているウェブメディアのコラボイベントに、ライターとして関わらせていただいたことがありました。業界では芸能人並みに有名な方々が出演するイベントで、自分の実績としてもとても貴重な経験になりました。

また、「サ道」という人気サウナ漫画を描いた田中克樹さん(サウナ好きの間では「タナカカツキ氏」として広く知られています)が高輪にプロデュースしたサウナ施設のプレオープンに招待していただいたことも。施設を訪れたら、なんとタナカカツキ氏ご本人がいらっやって、プチ興奮したことは忘れられません(笑)。

しかも、メディア関係者向けのプレオープンは基本的に無料。本来なら1回3,000円かかるサウナ施設や、1泊2万円のグランピング施設まで、無料で体験させてもらいながら、さらに原稿料をいただけるわけです。これ、こんなことがあっていいのかと思うくらいありがたい話ですよ。

「好きなことを仕事にすると辛い」は本当？

よく「好きなことを仕事にすると、好きじゃなくなる」と言われます。正直、私もそれを心配していました。

でも実際には、今のところそういう感覚はあまりありません。毎日毎日取材があるわけでもなく、月に数えるほどのペースなので、仕事としての適度な距離感が保てています。

好きなことを仕事にしたいと思っているなら、最初から「全部仕事にしなきゃ」と考えなくていいのかもしれない。趣味の延長で少しずつ始めてみることで、好きな気持ちを保ちながら仕事にできる可能性があります。

好きなジャンルの取材をするって、本当に良いことしかありません。もし「趣味を仕事につなげたいな」と思っている方がいたら、ぜひ一歩踏み出してみてください。自分の「好き」が仕事になったとき、見える世界がきっと変わります。